

女川原子力発電所3号機 第6回定期検査の概要

1. 定期検査の期間

平成22年7月29日(木)～平成22年11月25日(木) 120日間

(発電停止期間:平成22年7月29日～平成22年10月29日 93日間)

2. 主要な点検ならびに作業の結果

(1) 燃料の取替え

560体ある燃料集合体のうち、116体を新燃料へ取替えました。

(2) 制御棒駆動機構の点検

137体ある制御棒駆動機構のうち19体を取外し、そのうち13体について分解点検し、その健全性を確認しました。また、残りの6体については、予備品と取替えました。

なお、前回定期検査時に、制御棒駆動機構の一部の部品について、品質記録の記載(98-013)と異なるシリアル番号(製造番号)の部品(98-007)が組み込まれていたことに鑑み、品質記録上98-007が組み込まれていることになっている制御棒駆動機構を確認した結果、98-013が組み込まれており、部品の入れ違いであったことを確認しました。

当該部品は本来組み込まれているものと同型の部品であり、制御棒駆動機構の性能に影響を与えるものではないことから、継続使用することとし、品質記録を適切に修正しました。

(3) 出力領域モニタの取替え

31本ある出力領域モニタ(原子炉内で核分裂によって発生する中性子の量を計測する検出器)のうち6本について、性能維持を図るため新品へ取替えました。

(4) 制御棒取替え

137本ある制御棒のうち13本について、性能維持を図るため新品へ取替えました。

(5) 復水器細管の点検

約27,000本ある復水器細管のうち、約14,300本(A系:約1,000本、B系:約13,300本)について渦流探傷検査等を行い、健全性を確認しました。

なお、予防保全の観点から減肉等が確認された細管6本(A系:2本、B系:4本)について施栓等を行いました。

( 6 ) 配管減肉に係る検査

原子炉系およびタービン系の配管約 7 0 0 箇所について肉厚測定検査を実施した結果、大きな減肉はなく安全性が確保されていることを確認しました。

( 7 ) 原子炉圧力容器ヘッドスプレイ配管改良工事

残留熱除去系配管の一部である原子炉圧力容器ヘッドスプレイ配管（原子炉停止時に原子炉上部に大きな熱の力が発生することを防止するため原子炉上部を冷却する系統）について、混合ガス（水素・酸素）が蓄積・滞留することを防止するため、混合ガスを逃がすためのベント配管の設置を実施しました。

( 8 ) 排気筒耐震裕度向上工事

耐震上の裕度をさらに向上させることを目的に、平成 2 1 年 8 月より改良工事を実施しており、今定期検査終了後も継続実施します。

以 上